

ディレクター日誌（活動・子どもたちの様子）

期 日：平成29年7月28日（金）～8月5日（土）【8泊9日】

場 所：十種ヶ峰青少年自然の家周辺の山域（山口市阿東）

参加者：県内の小学5・6年生（男子16名、女子16名）4班

1日目 7月28日（金）晴れ 方丈原 泊

説明会以来の久しぶりの再会に、少し恥ずかしそうに言葉を交わす子どもたち。その表情には、家族と9日間離れることへの不安とこれから始まる冒険への期待が入り混じっている。

1日目は、これからの山の生活での基礎を学ぶ。パッキングの仕方、タープやテントの立て方、トイレの仕方、地図の読み方、コンパスの使い方等、初めて知ることばかり。

目的地までわずかな距離だが、ザックの重さにへとへとになりながら、何とか歩き切った。夜のミーティングで、明日の目標を確認し、テントで初めての夜を迎えた。

当日のスケジュール

- 10:30 集合
- 11:00 開会式
昼食、出発準備
- 15:00 バックパッキング
- 16:00 方丈原着
タープ・テント設営
水補給、食事準備
- 19:00 夕食
ミーティング



パッキングの練習

歩きやすく取り出しやすいように荷物の入れ方を説明するよ



早くシュラフで寝てみたいな♪

シュラフ(寝袋)の使い方



ザック…重っ！！

初バックパッキング



みんなで協力してたてようぜ！

初タープ&テント設営

2日目 7月29日(土) 晴れ 神角神社奥 泊

5時前にひぐらしが森中に一斉に鳴き始め、目覚ましの代わりとなり、子どもたちが起き始める。タープ・テントの撤収の仕方や共同装備の分配の仕方をイントラ（インストラクター）と話し合いながらパッキングの準備を進めていく。3日目くらいまでは、トレーニングフェーズとして、イントラは丁寧に山の生活の仕方を伝授している。

昨日、「家に帰りたい」と言っていた子どもが、今日はナビ係として活躍し、少し笑顔が出てきた。この子どもやこのグループがこれからどんな変容を遂げるのだろうか。また、何か困ることが起きると「知らん」と言う子どもがいる。イントラが丁寧に「知らん」という言葉の意味を伝えていく。

このプログラムでは、自己とのチャレンジ、仲間とのチャレンジ、自然とのチャレンジを大事にして欲しいと最初に子どもたちに話をした。慣れない山の環境の中、重い荷物や友だちとのかかわり、照りつける太陽にストレスを感じている子どもたち。イントラやサブイントラは子どもたちが感じているストレスを成長の一因として活用し、子どもたちを陰に陽に導いている。子どもたちは、日常の世界から完全に離れ、頼れるのは、家族ではなくて、自分と仲間ということに気付いてきた。

当日のスケジュール

- 5:00 起床・朝食・水補給
タープ・テント撤収、出発準備
- 8:00 バックパッキング
- 9:00 十種ヶ峰肩通過
- 12:00 昼食
- 14:00 神角神社奥到着
タープ・テント設営
水補給、食事準備
- 17:00 夕食
ミーティング



荷物を分けよう！

まず、整地するよ。地図をコンパスに合わせて



ザック装着

ザックは腰で背負うと歩きやすいね。せーのっ！



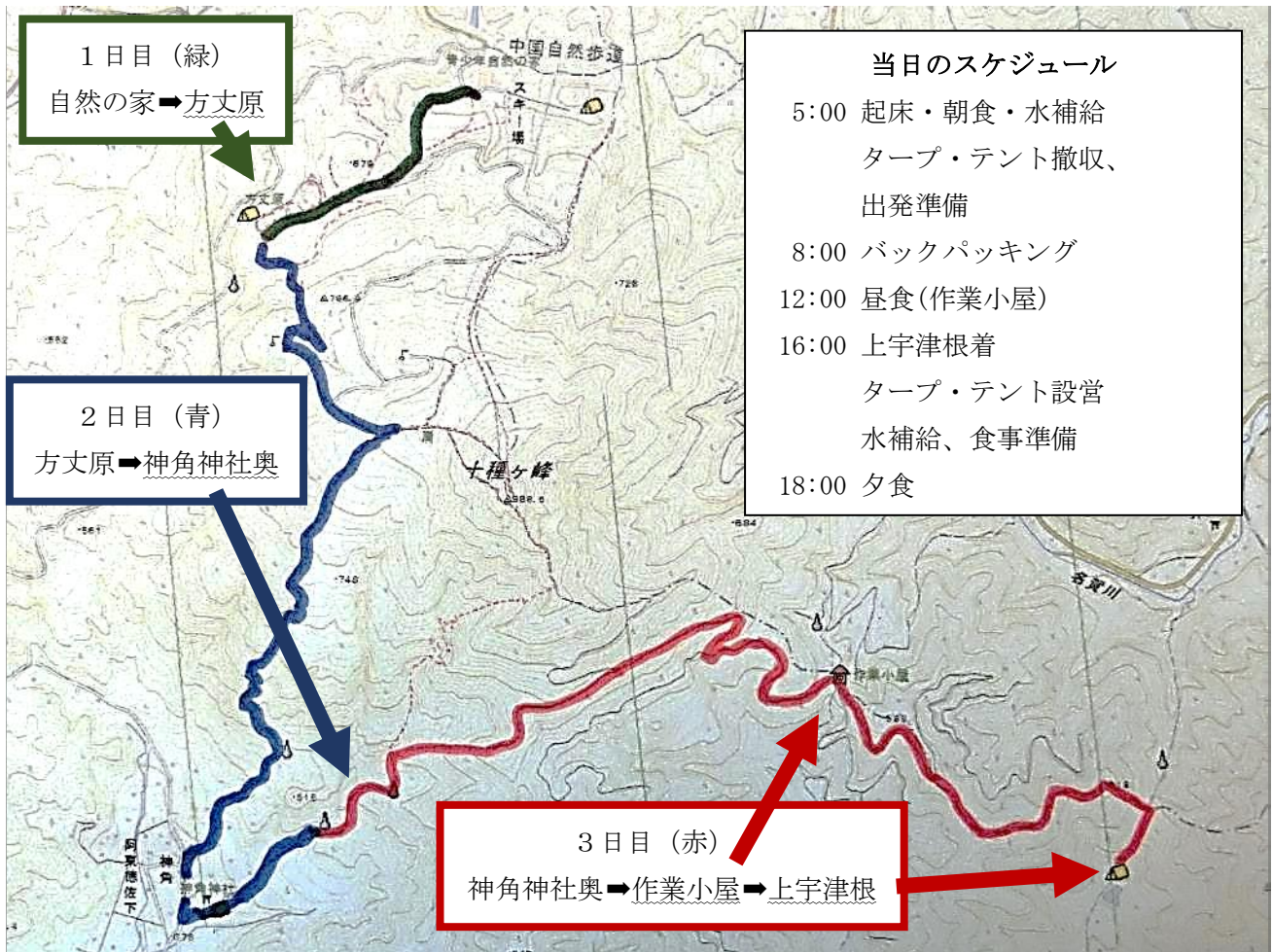
地図読み



もうちょっとだよ、頑張ろう！

神角神社奥到着

3日目 7月30日(土) 晴れ 上宇津根 泊



3日目は、スタッフの打合せで意見が割れるほど、コースを悩んだ。3日目としては、少しきつ過ぎるのではないかと心配をしたのだ。しかし、3日目にこのコースを体験し、力を合わせ乗り越えれば、必ず大きな糧となり、ファイナルツアー（自分たちだけの力で十種ヶ峰のピークアタックを行う）につながると考えた。中には、ザックの重さや班のメンバーと意見が合わないことに苦しみ、泣きながら歩いた子どももいたようだ。しかし、みんなで励まし合いながら一歩ずつ進み、全員が目的地である上宇津根まで辿り着いた。子どもたちの力は凄い。この子どもたちなら、必ず自分に打ち勝ち、仲間と絆を深め合っていると確信した。



上宇津根までこの道で正しいと思うけど、みんなどう思う？

山中での地図読み練習



もう子どもたちだけで、たてられるね

子どもたちだけでのテント設営

4日目 7月31日(日) 晴れ(雨) 福谷・クォーツバレー 泊

4日目となり、身体のリズムが山の生活に馴染んできた。朝は必ずみんなでトイレタイム。山でのトイレにも慣れてきた。この日から班によって行程が異なる。3つの班が福谷に行き、1つの班は、クォーツバレーに行った。福谷に着いた班は、ディップ(川で水浴び)を行った。3日間で疲れ切った身体を冷やすことで、疲労回復になる。子どもたちは元気に水をかけ合い、大はしゃぎだった。コミュニケーションも活性化されてきたようだった。

夕方に、突然の夕立に遭遇した。天気の急変に自然のエネルギーを体感した瞬間だった。

当日のスケジュール

- 5:00 起床・朝食・水補給
タープ・テント撤収、
出発準備
- 8:00 バックパッキング
- 12:00 昼食
- 14:00 福谷・クォーツバレー着
ディップ
タープ・テント設営
水補給、食事準備
- 18:00 夕食、ミーティング



早朝の出発準備



安全のためにみんな
でトイレへ。
目指せ！黄金！！

明日のロッククライミングはね・・・

トイレタイム



ひゃあ！冷た〜い！！
ディップ、最高！

ディップ



ミーティング

5日目 8月1日(月) 晴れ 福谷・クォーツバレー泊

3つのグループがロッククライミングに取り組んだ。ロッククライミングは個人のチャレンジを全員で支え合って成立する。チャレンジャー（ロッククライミングする人）はビレイヤー（ザイルを直接もち、支える人）と強い信頼関係で結ばれる。時には、途中で足が止まってしまうこともある。しかし、1歩踏み出し、逞しい足取りでみんな登っていく。終わった後に感想を聞くと、まず仲間への感謝の言葉が出てくる。ロッククライミングの奥深さを感じた。

子どもたちの言葉

「仲間がいるんだから心配せずにみんなを信頼して、ゆっくりでいいから自分のペースでね」
「頑張って元気を出して絶対に行けるんだよ」
「横にちょっとずつ行くと、くぼみがあるよ」
「自分を信じて、仲間を信じて」
「大丈夫、大丈夫、絶対に大丈夫だからね」

当日のスケジュール	
5:00 起床・朝食・水補給 出発準備	
【Aグループ】	【Bグループ】
バックパッキング	ソロ
ロッククライミング	
17:00 夕食 ミーティング	



ハーネス装着

ハーネスをしっかりとけないとね。もっと上に足をあげて。



どこにコースがあるか教えてくれる？

ロッククライミング



怖くて、下に降りられないよ〜。

大丈夫だよ。ゆっくり。みんなを信じて。

懸垂下降中



1人の挑戦を支える仲間たち

6日目 8月2日(火) 晴れ 福谷奥 泊

6日目となり、いよいよ後半戦に突入した。Aグループは、ソロという活動に臨んだ。ソロとは、自分と仲間との関係を時間をかけてじっくりと振り返る時間である。これまでの5日間の自分のチャレンジを振り返り、これから先への見通しや目標をもつことができる。また、家族や自然に思いを馳せる時間にもなる。子どもたちは、1日のほとんどをソロの時間に使い、色々なことを考えることができたようだ。

当日のスケジュール	
5:00 起床・朝食・水補給 出発準備	
【Aグループ】	【Bグループ】
ソロ	バックパッキング ディップ
17:00 夕食 ミーティング	

イントラの1人が、ある子のソロが終わった後の感想を教えてくれた。その子は、兄弟がおり、自分はいつも我慢していると感じているようだ。親に甘えたいけど、素直に甘えられない。自分が我慢すれば、みんなが幸せだと思い込んでいた。そのストレスから友だちと喧嘩することやトラブルに巻き込まれることが多くなった。しかし、この5日間を経て、考え方が変わったようだ。5日間も、我慢するのは不可能だった。自分が言いたいことを言って、初めて仲間がともに真剣に考えてくれたことが本当に嬉しかったのだ。わがままとならないように自分が思っていることをきちんと相手に伝えることの意味や価値をこの子はソロ中にずっと考えていたのだ。ソロ中に子どもたちは思索にふけり、これまでの人生やこれからの人生について色々なことを考えたに違いない。



俺がみんなを引っ張るぜ！

クォーツバレーから福谷奥への移動



家族のみんなは元気になっているかな？寂しいな。

ソロ



こんなにゆっくりできたのは、久しぶり

ソロ



疲れが吹き飛ぶ～！

ディップ

7日目 8月3日(木) 晴れ 方丈原 泊

あっという間に、この日がやってきた。そう、今日は、これまでの集大成であるファイナルツアーの日なのだ。

ファイナルツアーでは、イントラは子どもたちに、よほどのことが無い限り、積極的にはかかわらず、後ろから黙ってじっと見守ることになる。トレーニングフェーズから積み重ねてきたものを、子どもたちだけで実行するのである。昨日のイントラミーティングで、あるイントラから嬉しい報告を受けていた。ある子が毎日、その日の目的地に着くと、「僕はここでリタイアします」と言ってくるのだそうだ。実際に私が迎え入れた際もそう言っていた。

しかし、ソロ開けの子どもたちでのミーティングの際に、「みんながいてくれて嬉しい」と言い、今まで仲間を持ってもらっていた荷物も全部自分が持つと宣言したそうだ。実際に見事に歩き切り、十種ヶ峰山頂で雄叫びをあげていた。また、家族に感謝の気持ちを叫ぶだけでなく、昨年亡くなったおばあちゃんの名前を呼び、「見守ってくれてありがとう」「僕は頑張っているよ」って空に向かって叫ぶ姿には、感動させられ、私も亡くした祖母のことを思い出し、涙が出てきた。全員がピークアタックに見事成功し、集合写真を撮ったので、次のページに「山頂編」として載せることにする。

当日のスケジュール

- 5:00 起床・朝食・水補給
タープ・テント撤収、出発準備
- 7:00 バックパッキング
- 12:00 昼食(作業小屋)
- 13:00 十種ヶ峰山頂着
- 15:00 方丈原着
タープ・テント設営
水補給、食事準備
- 18:00 夕食
ミーティング



ファイナルツアー出発

自分たちの力を信じて頑張るんだぞ！！
行ってらっしゃい！！



絶対にファイナルツアーを成功させるぞ

ツアー中

他の班が登ってきたよ。
みんなで迎えよう。
お疲れさーん。タッチ！



あそこに見える福谷池から来たんだよ

ピークアタック振り返り



ピークアタック成功した子どもたち

十種ヶ峰山頂編



ひっきー班



にこちゃん班



そうちゃん班



りょうさん班

8日目 8月4日(金) 晴れ 自然の家常設テント 泊

十種ヶ峰ピークアタックを含むファイナルツアーが終了し、昨夜は懐かしの方丈原に戻ってきた。プログラム2日目にみんなで泊まった場所なので、勝手知った場所だ。テントから出てきた子どもたちの顔は寝起きだが晴れやかで、物事を達成した喜びを感じさせる表情だった。

今日は自然の家に戻り、クリーンナップを徹底的にする。今までこのプログラムに参加した山口県の小学5・6年生の先輩方が代々大事に使ってきた様々な物品をまた来年度に引き継ぐために、徹底的に磨きあげるのだ。

スタッフはザックやスパッツ、テントやタープなど、汚れを厳しくチェックしていく。スタッフのチェックを通ると、次は本部のチェックが入り、最後には自然の家の職員さんに最終チェックをしてもらい、倉庫に

物品が戻されることになる。午後からは、お待ちかねのお風呂タイム。久しぶりのお風呂は最高です。身体や髪は3回目の洗いでようやく泡立ってくる。そしてクリーンナップの続きを行い、ラストナイトミーティングに入った。ペアレント参加の保護者には、頑張りをたっぷり伝えました。

当日のスケジュール

- 5:00 起床・朝食・水補給
タープ・テント撤収、出発準備
- 7:00 バックパッキング
- 9:00 自然の家着
クリーンナップ
- 12:00 入浴
- 13:00 昼食
クリーンナップ
- 17:00 夕食
- 19:00 ラストナイトミーティング
- 21:30 ペアレント懇談



本当にパッキングが
上手になったね

方丈原とお別れ



自然の家ただいま~!!!

自然の家への帰還



あま~い。まだ
汚れているよ

少しでも泥が付いて
いたらやり直しだな

ザックの汚れチェック



力を入れて隅々ま
できれいに!

スパッツの汚れ落とし

9日目 8月5日(土) 晴れ 愛しの我が家 泊

いよいよ最終日。最初は9日間長いな～っと言っていた子どもたちだったが、今では、離れたくないとかもっとプログラムを続けたいという声も聞かれる。

昨夜のラストナイトミーティングでは、これまでの8日間を振り返って、色々なことを語り合ったようだ。「サクス」と呼ばれるこれまでの感謝の気持ちをみんなで伝え合う活動をしている班もあった。お互いがお互いを認め合う姿は、ただのグループではなく、チームとしてのものだった。自分の限界に臨んだ者同士の連帯感を強く感じた。

さて、プログラムの集大成となる、マラソンが始まる。コースはオレンジコース(3km)と猫コース(2km)である。子どもたちが走る前に、この9日間を振り返ることと同時にこれから将来のことも考えながら走るように伝えた。このマラソンが、未来に向けた助走となって欲しいと考えている。

素晴らしい子どもたち32人と素晴らしいスタッフに恵まれ、無事チャレンジプログラムを終えることができました。感謝です。このプログラムに参加してくれた32人の人生が光り輝くものとなりますように。これからも、自己とのチャレンジ、仲間とのチャレンジ、自然とのチャレンジを心の片隅に置いて生きていって欲しいと願います。素晴らしい9日間をありがとうございました。

当日のスケジュール

- 5:00 起床
朝食
最終クリーンナップ
- 8:30 保護者懇談会開始
ミーティング
- 10:30 マラソンスタート
- 11:30 閉会式

オレンジコースと猫コースがあるよ



マラソンのコース確認

最後まで走りきろう



マラソン前の目標確認

走り切った～。みんな応援本当にありがとう



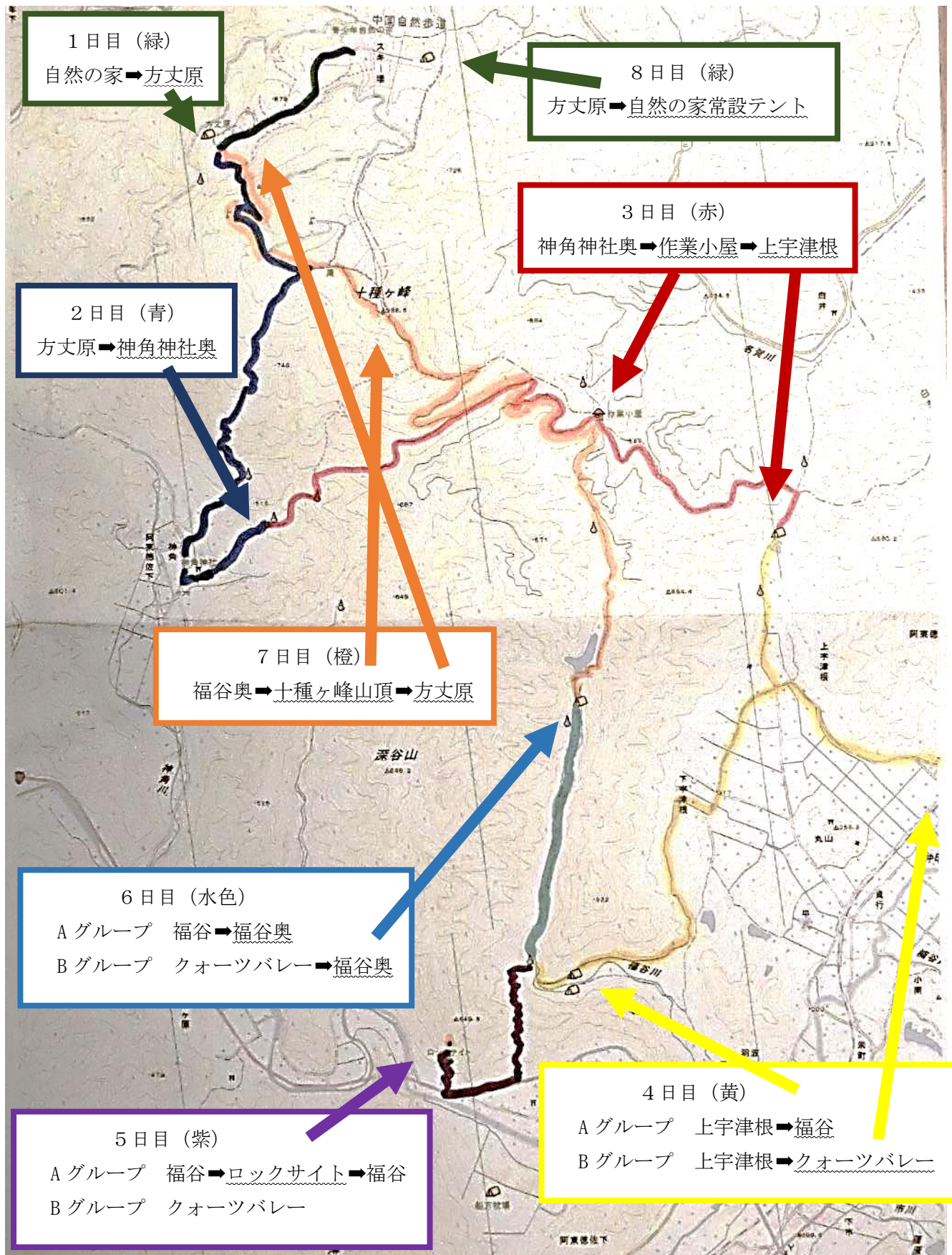
マラソンゴールシーン

9日間、お疲れさまでした



閉会式

チャレンジプログラム地図編



チャレンジプログラム思い出編

